

第5学年 国語科学習指導案

児童 5年2組 男子14名 女子17名 計31名
指導者 門屋健司 高橋涼子

- 1 単元名 「地球環境について考えよう」 11月 16時間（話す・聞く2 書く7 読む7）
（教材名 子ども環境会議を開こう）

2 単元について

(1) 教材について

第5学年及び第6学年の「書くこと」における目標は、「目的や意図に応じ、考えた事などを筋道を立てて文章に書くことができるようにするとともに、効果的に表現しようとする態度を育てる。」である。

本単元は、第1教材「一秒が一年をこわす」と第2教材「ホタルのすむ水辺」と第3教材「『子ども環境会議』を開こう」の3教材から構成する複合単元である。本教材の「一秒が一年をこわす」では、事実を明確な数量によって押さえながら、現在の地球規模での環境に関する問題について述べている。「ホタルのすむ水辺」では、より身近な問題を分かりやすく取り上げて述べている。この二つの説明文をもとにして、「子ども環境会議」を開くために、自らも環境問題について調べ、発表原稿にまとめて発表することにより、資料を整理し、構成的な原稿を書く力をつけることができる。

(2) 児童の実態

児童は5年生になってから、説明文「海にねむる未来」で文章を的確に読みながら筆者の考えをとらえて自分の考えをもつ学習をした。また「言葉の研究レポート」では、身の回りの言葉について調べたことを整理して分かりやすくレポートを書くことを学んだ。さらに「わたしたちの学校生活」では、体験したことを分かりやすく書き、それをもとに相手や目的を考えてスピーチをする学習をしてきている。これらの学習を通して、児童は要旨をとらえたり、文章全体の構成を考えて書いたりすること、また、相手意識・目的意識を明確にもち組み立てを工夫して話す力が育ってきている。

学級の傾向としては、全体的には意欲的に書く活動に取り組むが、「何を書くのか思いつかない」「面倒くさい」等、書くこと全般に抵抗を感じている児童も数名いる。また、文章をまとめる力にはかなり個人差がある。

(3) 指導に当たって

本単元の学習は、相手意識・目的意識をもちながら、環境問題の深刻性や自分達にできる解決策を考えて意見文を書くことが学習の中心になる。分かりやすい発表原稿が書けるようにすることが大きな目標である。そこで、書くことを苦手としている児童も意欲的に学習活動に取り組むことを考慮しながら、個に応じた指導の工夫を行っていきたい。

(4) 研究仮説との関わり

ア 教材の工夫

児童が書く題材は、身近で問題を意識しやすく、自分達が行動できそうなものを選択させる。実際に書く過程では相手や目的を意識させながら、構成の段階では、多様な文章構成の中から自分の主張したいこと、収集した事例に一番あうと思われる文章構成を各自選び構成表にまとめさせる。また、記述の段階では、ワークシートや掲示資料を活用し、資料からの引用部分と自分の考えを明確に分けて、自分の言いたいことをしっかり伝えて書けるようにする。推敲の段階では、例文により書き直す観点を提示したり、自己評価、相互評価、教師による評価を意図的に位置付けたりして、さらに効果的な表現になるような工夫をさせる。

イ グループ学習，T・T指導

記述の場面では，どの児童も意欲を持って書けるようにつまずきの見られる児童に対しては教材文の書き方を参考にさせたり，対話によって思い出させたりしながら支援していく。特にT2はつまずきの予想される児童を中心に支援を行っていくが，T1と同様に他の児童一人一人にもきめ細かな支援を心がけていく。

また，構成の場面ではグループ学習を取り入れ，組み立てに注意して考えたり工夫したりしているかを話し合う場を設定する。そこでよりよい構成になるように支援していく。

ウ 座席表の活用

個々のテーマを確認し，児童の様子やつまずきの状況を座席表に書き込んでいくことにより，児童の変容を見取っていく。そして個々のつまずきや行き詰まりに対して支援し，解決への手がかりを指導していくことができるようにする。

3 単元の目標

地球環境について考えながら，文章を読んで要旨をとらえ，自分の課題を持つ。

課題について調べたことを整理して資料を作り，「子ども環境会議」を開いて，考えを深める。

[関心・意欲・態度] ・環境問題について関心を持ち，自分の課題について調べたり，発表し合ったりしようとしている。

[話すこと・聞くこと] ・資料を示しながら，自分の考えを発表することができる。
・環境に関して自分たちができることという議題に関して，自分の立場を明確にし，積極的に意見を出し合うことができる。

[書くこと] ・調べたことの中から，必要な事柄や資料を選び，文章の組み立てに気をつけながら，発表原稿を書くことができる。

[読むこと] ・地球環境について調べ，話し合うという目的を持って読み，文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえることができる。
・書かれている内容について，事例と感想・意見の関係を押さえ，自分の考えを持ちながら読むことができる。

[言語事項] ・文と文の意味のつながりを考えながら，指示語や接続語を適切に使うことができる。

4 単元の評価規準

	概ね満足
関心・意欲・態度	地球規模や身近な環境問題に関心をもち，自分たちの課題について意欲的に考えたり話し合ったりしようとしている。
話すこと・聞くこと	意図が伝わるように組立てを考えて，資料を活用しながら自分の考えを発表している。 自分の立場や意図をはっきりさせながら，計画的に話し合っている。
書くこと	調べたことの中から，必要な事柄や資料を選び整理し，組み立てを工夫して書いている。 目的や意図に応じて自分の考えを効果的に書いている。
読むこと	地球環境について調べ，話し合う目的をもって教材文を読み，文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえている。 書かれている内容について，事例と感想・意見の関係を押さえ，環境に関して自分の考えをもちながら読んでいる。 環境に関して自分に必要な情報を得るために学校図書館を利用するなどして必要な本を探して読んでいる。
言語についての知識・理解	文と文，段落と段落の接続関係を考え，指示語や接続語を適切に使っている。 必要な情報の内容を理解したりするための語句について，辞書を利用して調べている。

5 指導計画

次	時	目 標	評価規準	単元の評価規準との関連	指導体制
			概ね満足		
1	1	単元のねらいを知り，学習の見通しをもつことができる。	・「地球環境について考える」という話題に興味をもって文章を読もうとしている。	関話	一斉
	2	まとめりごとの要旨を的確にとらえ，文章に書かれている事例と筆者の考えの関係を押さえたり，自分の考えと課題をまとめたりすることができる。	・人類の科学技術の発達とは何か，それが地球環境に及ぼす影響はどんなことかについてワークシートに書いている。	読	一斉
	3		・地球が誕生してから，人類が便利な社会を作り上げるまでの流れを，年数と合わせて書いている。	読	一斉
	4		・「地球の歴史」と「人類の歴史」を比較して読み取り，筆者の主張も書いている。	読	一斉
	5		・要旨（人類の知恵と技術での繁栄，地球環境のわずかな期間での破壊，地球からのしっぺ返し）をとらえ，自分なりに地球環境に対する考えを書いている。	読	一斉
2	文章に書かれている事例と筆者の考えの関係を押さえ，自分の考えと課題をまとめることができる。		・ホテルがすすめない理由，それが減った理由，また，筆者の意図をとらえてワークシートに書いている。さらに，それについて自分の考えを書いている。	読	一斉
3	7	必要な情報を得るために，課題に合った方法を選び，調べることができる。	・自分ができる最もよい方法で，情報を収集している。	関読	T・T
総合的な学習の時間で，自分達の課題について調べ学習をし，資料を収集する。					
3	8	調べたことの中から必要な情報を選択し，発表原稿の構成を考慮することができる。	・集めた情報を整理して，分かりやすい発表原稿の構成を考えている。	書言	一斉
	9				
	10	構成表をもとに，聞き手によく分かるような発表原稿を書くことができる。	・事例と自分の考えを明確にした分かりやすい発表原稿を書いている。	書言	T・T
	11				
	12	推敲の観点にもとづいた例文の提示や自己評価，グループごとの相互評価により，さらによく分かる発表原稿に書き直し，友達の表現の工夫に気づくことができる。	・観点にもとづき，地域の人々に，調べて考えたことを印象づけて発表できる原稿になるよう推敲し，友達の推敲の感想も書いている。	書言	一斉
13					
14	推敲した原稿を清書し，子ども環境会議の準備をすることができる。	・観点にもとづき清書し，必要な資料と合わせて発表の準備をしている。	書言	一斉	
15					
15	話の組み立てを工夫し，資料を活用しながら発表したり，環境問題について自分の立場を明確にして意見を出し合ったりすることができる。	・話の組み立てを工夫し，資料を活用しながら発表している。 ・環境問題について自分の立場を明確にして，意見を出している。	関話	一斉	
4	16	「より確かな情報」のとらえ方や伝え方を読み取ることができる。	・「いつ・どこで・だれが・どんな方法で・どんな目的で」調査したのかを確かめること，また，自分が調査報告する際も，それらを意識することが大切であることをとらえ書いている。	読	一斉
総合的な学習の時間で，自分達の考えたことについて行動し，結果をまとめる。					

6 本時の指導（11 / 16時間 T・T）

(1)目標

構成表を手がかりにしながら，事例や自分の考えを明確にし，聞き手によく分かる発表原稿を書くことができる。

(2)具体の評価規準

	十分満足	概ね満足	努力を要する児童への支援	評価方法
書	段落と段落との続き方や簡単に書いたり詳しく書いたり書き方を工夫しながら，分かりやすい発表原稿を書いている。	段落と段落のつながりを考えて，事例と考えを明確にし，調べた結果，何が分かったのかがよく分かる発表原稿を書いている。	対話を中心にしながら，段落を意識させ，そのつながりが分かるような指示語や接続語の使い方を理解させた上で，書かせる。	発表原稿 振り返り カード

(3)授業研究の視点

- 視点1 分かりやすい原稿にするための観点を掲示資料や板書を通して示したり，字数を確認しながら記述ができるようにワークシートを活用したりして，見通しをもって書かせる。
- 視点2 一人一人の記述の状況に応じて支援を与え，つまずきの予想される児童には支援を行う時間を十分にとり，どの児童も書くことができるようにさせる。
- 視点3 前時の様子を把握し，どの児童も目標が達成できるように手だてを考え，意図的な支援を与えることにより，どの児童にも書くことに対する意欲を持たせる。

(4)展開

段階	学習活動	支援・留意点（ ）と評価（ ） 個...個に応じた指導	
		T 1	T 2
つかむ 5分	1 本時の学習課題をつかむ。 発表原稿の「中」「終わり」の部分の分かりやすく書こう。	前時の学習における「はじめ」の部分の記述を想起させ，構成表との照応の確認をさせる。 前時とのつながりから，本時は原稿の完成をめざすことを確認し，意欲化を図る。	つまずきの予想される児童の様子を観察しながら，必要に応じて声がけしていく。
深め る	2 構成表をもとに，発表原稿に必要な事柄を確認する。 ・構成表と対応した段落構成にする。 ・文末を敬体で書く。 ・聞く人に分かりにくいと思うことは，説明を加えて書く。 ・段落のつながりが分かる接続語や指示語を使って書く。 ・事例や考えを示す文末表現に注意して書く。	構成表から発表原稿への膨らませ方を確認し，記述への見通しを持たせる。 聞き手を念頭に置いて記述させるようにする。	つまずきの予想される児童の様子を観察しながら，必要に応じて声がけしていく。

35分	<p>3 構成表を手がかりに、発表原稿の「中」「終わり」の部分に記述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原稿を書く。 <p>4 分かりやすく原稿が書けたか発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1名の原稿を発表する。 ・分かりやすく書けているところについて話し合う。 ・隣同士で読み合う。 	<p>机間指導をしながら支援を与えていく。</p> <p>個...構成表の実態を把握しておき不足部分のある児童や、メモはできていてもうまく書けないでいる児童に個別指導を行っていく。</p> <p>個...メモを見ても書き出せない児童には対話によって支援していく。</p> <p>個...早く書き終わった児童には声を出して読ませながら、原稿の見直しをさせる。</p> <p>発表原稿に必要な事柄に気をつけて記述しているかを全体で確認させる。</p> <p>相互に読み合うことで、友達や自分の表現のよさや不足にも気づかせたい。</p> <p>構成表をもとに、事例と考えを明確にし、聞き手によく分かる発表原稿を書くことができたか。(書 発表原稿)</p>	<p>机間指導をしながら支援を与えていく。</p> <p>個...つまずきの予想される児童を中心に個別指導を行っていく。</p> <p>観点からそれないで読み合うことができたか確認しながら、必要に応じて声がけしていく。</p>
まとめる5分	<p>5 学習のまとめをし、次時の学習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードに書く。 	<p>本時学習内容を振り返らせながら、成就感を持たせ、次への意欲づけを図る。</p> <p>本時の学習を振り返ることができたか。(書 カード)</p>	<p>本時学習でつまずきの予想された児童の様子を座席表に記入しておく。</p>